

四日市市学校教育情報化推進指針

令和7年3月

四日市市教育委員会

1 はじめに

(1) 策定の趣旨

IoT やビッグデータ、AI 等をはじめとする技術革新が一層進展し、いわゆる超スマート社会（Society5.0）の到来から、社会や生活が急速にかつ大きく変化し、複雑で予測困難となってきています。一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

また、世の中全体のデジタル化・オンライン化が大きく促進しており、学校教育においても、学びを保障する遠隔教育・オンライン教育の広がりとともに、教育データの利活用等を含め、教育活動におけるデジタルトランスフォーメーションがより一層加速しています。これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、ICT はもはや必要不可欠なものであることを前提として、学校教育の在り方を検討していくことが必要です。

このような時代の中で、児童生徒が学ぶことの意義を実感でき、一人一人が資質・能力を最大限に伸ばすことにより、これからの社会を生き抜く力を身に付けることができるよう、学校教育の情報化に係る教育分野全般に関する施策の方向性を定め、学校教育の情報化の更なる推進を図ることを目的として本指針を策定しました。

(2) 本指針の位置付け

本指針は、「第4次四日市市学校教育ビジョン」の施策の重点「ICTの効果的な活用（四日市市 GIGA スクール構想）」との整合性を図りながら、「学校教育の情報化の推進に関する法律」に基づく、国の「学校教育情報化推進計画」を踏まえ、本市における学校教育の情報化推進に関する施策についての計画を包括するものとしています。

今後の学校教育の情報化を進めていくうえで、すべての市立小中学校及び教育委員会が取組の理念や具体的施策を共有することを目的として策定するものであり、本市学校教育ビジョンにおける GIGA スクール構想実現のための、具体的な取組の方向性を示すものとして位置付けます。

(3) 教育DXの基本的な考え方

「DX」とは「Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション)」の略です。

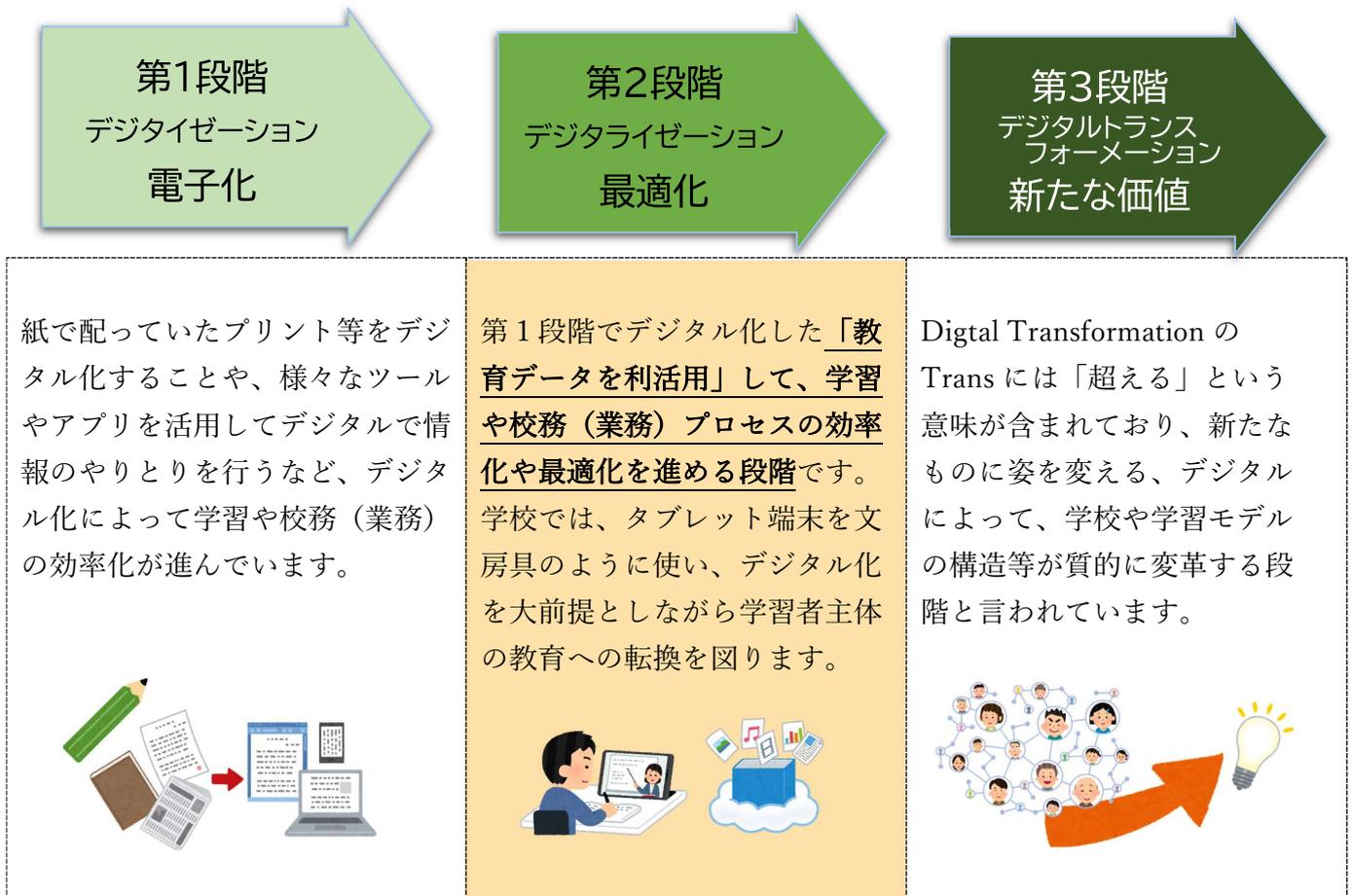
英語圏では、「Transformation」は「X-formation」とも表記されることもあり、その頭文字を取って「DX」と略され、下の図の3つの段階があります。

GIGA スクール構想の推進により、デジタルは日常的なものとなり、第1段階「電子化 (デジタルイゼーション)」として、学校における ICT 環境は着実に整備されつつあります。

これからの社会においては、紙と鉛筆を使うように、ICT を当たり前を使いこなしていく必要があります。教育においても、デジタルを積極的に活用しながら、学習者である児童生徒が主役となる学びへと質的転換を図るため、様々な教育データを利活用し、学習や校務の効率化や最適化を進める段階へと移行していきます。

具体的な教育データとしては、児童生徒の学習状況、成績、出席状況、アンケート結果、教員の指導方法、教材の効果など、多様なものがあります。

「教育データの利活用」をさらに進めることにより、例えば、児童生徒にとっては自分に適した教材や学習方法を選べること、教員にとっては支援が必要な児童生徒を早期発見したり、受けもつ児童生徒に適した教材を見つけたりするなど、「誰一人取り残されない、公正に個別最適化された学び」の実現を目指していきます。

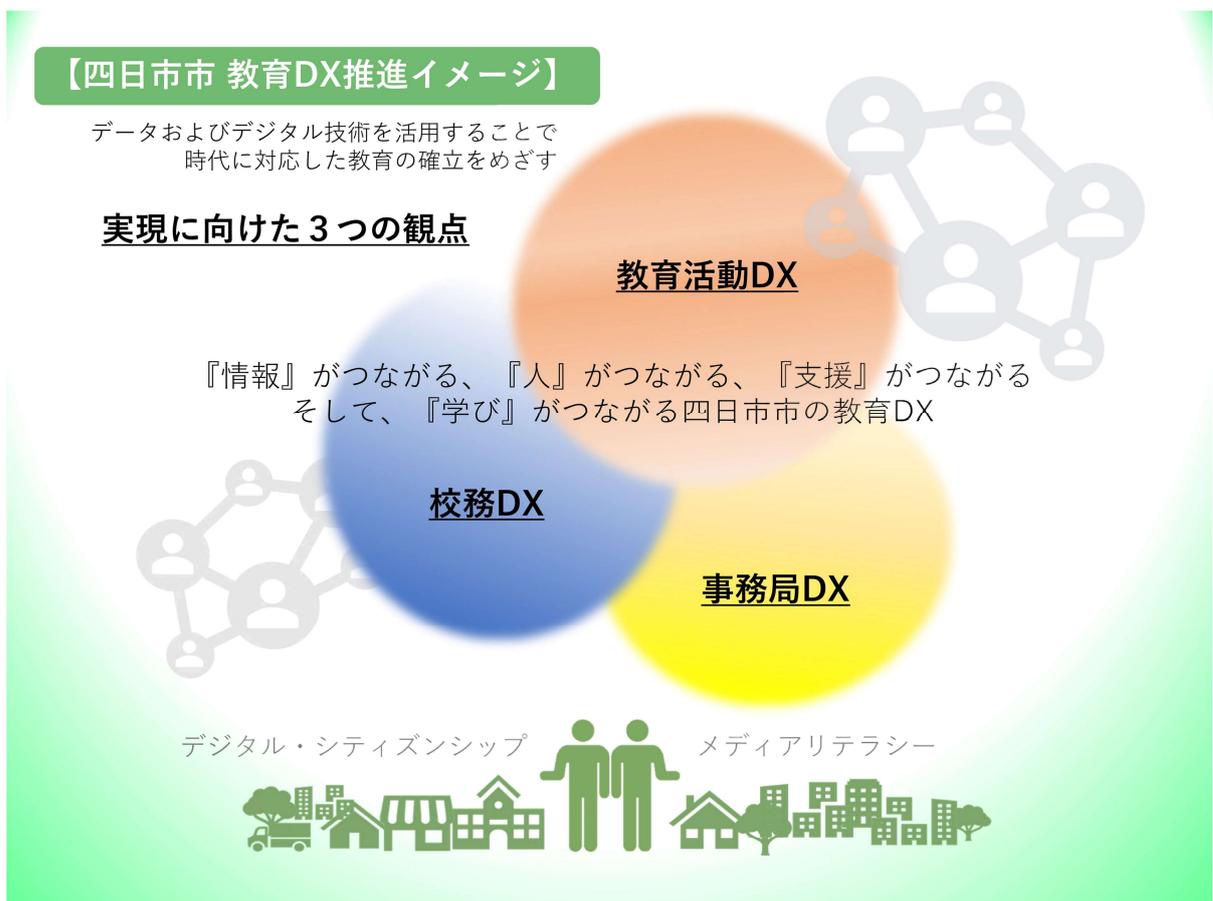


2 四日市市における教育DXの推進

(1) 四日市市の教育DXによりめざす教育

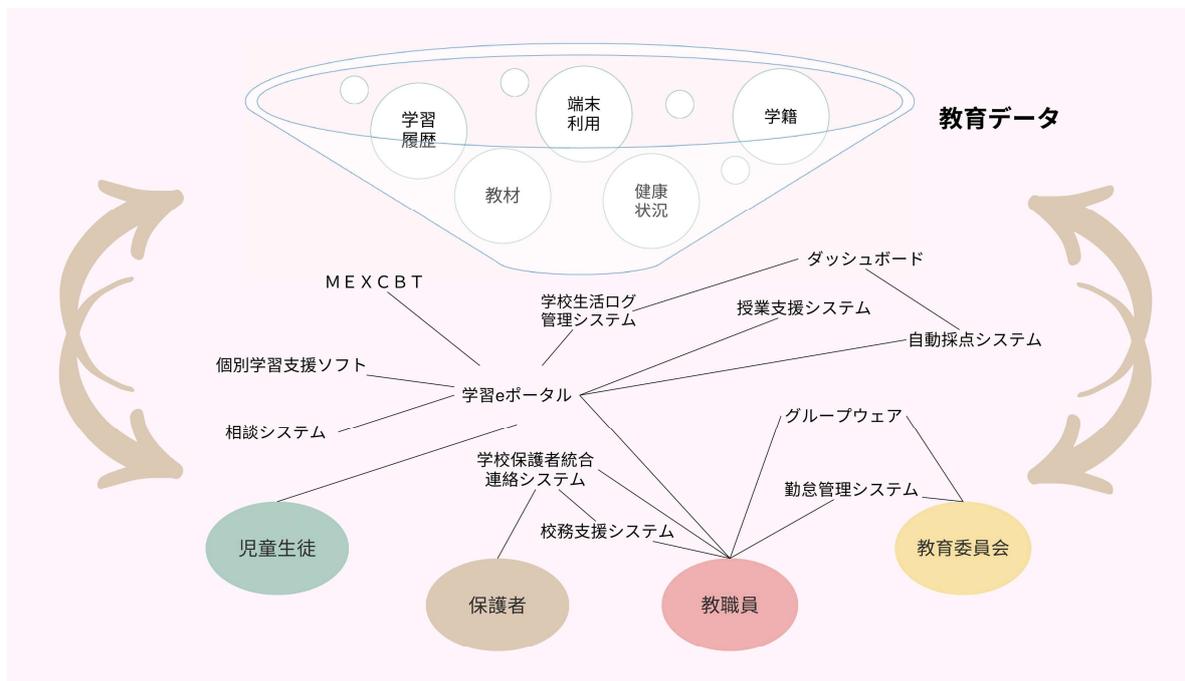
教育データおよびデジタル技術を活用することで、学校がカリキュラムの編成や学習のあり方を革新するとともに、教職員や事務局員の業務や組織、文化等を革新し、時代に対応した教育の確立をめざします。

(2) 四日市市における教育DXの推進イメージ



四日市市における教育DXとしては、「教育活動DX（児童生徒の学び方の転換）」「校務DX（教職員の働き方の転換）」「事務局DX（学校への支援の転換）」の3つの考え方で整理し、教育データ利活用の具体的な方向性を示すことで、本市の学校教育の情報化の更なる推進をしていきます。

(3) 教育データ利活用の実現に向けた本市の「環境整備12のシステム」



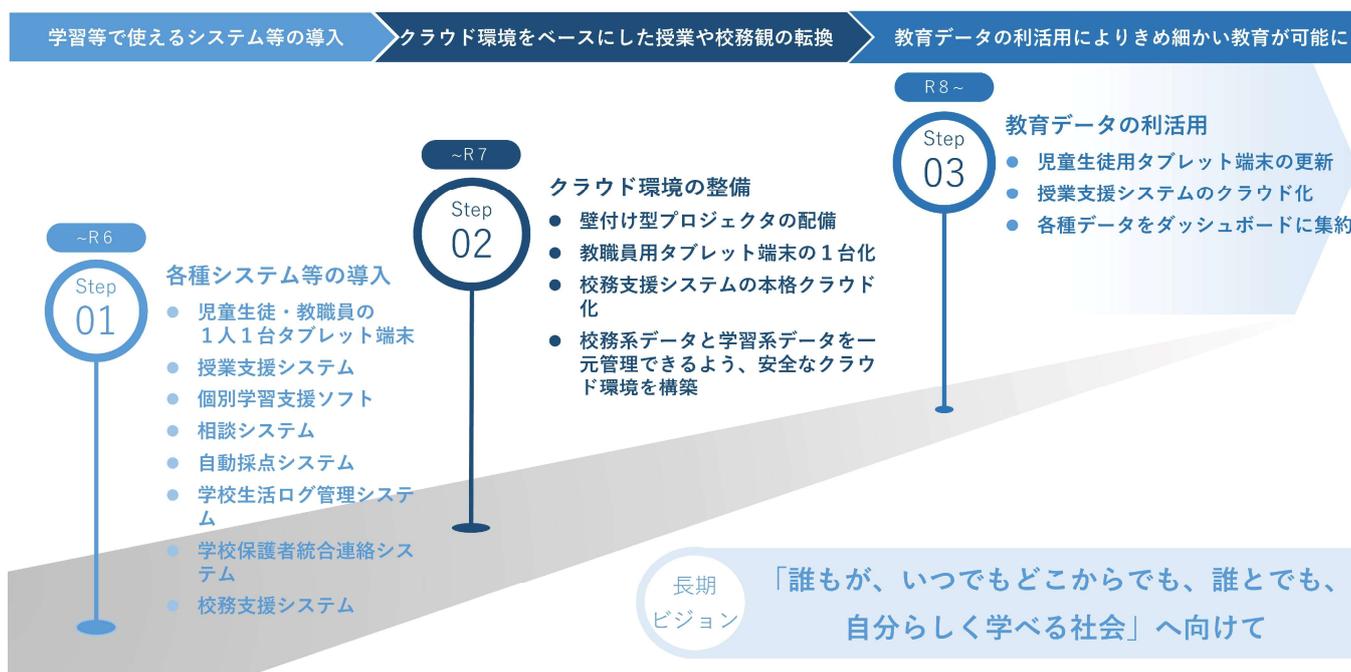
「環境整備12のシステム」

- ① 授業支援システム……………ICT で児童生徒の学びを促進しながら教員の授業運営をサポートするシステム
- ② 個別学習支援ソフト……………個に応じた問題が出題され、学習できるデジタルドリルなどのソフト
- ③ MEXCBT……………公的機関等が作成した問題を活用し、オンライン上で学習等ができるプラットフォーム
- ④ 学習 e ポータル ……………MEXCBT やデジタル教材へアクセスする、児童生徒の学習のための窓口システム
- ⑤ 自動採点システム……………児童生徒が紙面で解答したテストを取り込み、デジタル端末上で採点できるシステム
- ⑥ 相談システム……………1人1台端末を活用して、児童生徒が自分の悩みなどを相談できるシステム
- ⑦ 学校生活ログ管理システム……………児童生徒の心の状態や生活の記録を可視化できるシステム
- ⑧ 校務支援システム……………成績や保健情報、学籍情報などを統合して管理するシステム
- ⑨ 学校保護者統合連絡システム…保護者が出欠連絡を学校に送信したり、学校が便り等を配信したりできるシステム
- ⑩ グループウェア……………情報共有やコミュニケーションをスムーズにおこなえるよう管理ができる機能
- ⑪ 勤怠管理システム……………教職員の出退勤時間等を正確に記録・管理するためのシステム
- ⑫ ダッシュボード……………複数のデータなどを表やグラフなどの一覧で確認できる機能

「環境整備12のシステム」により可能となること

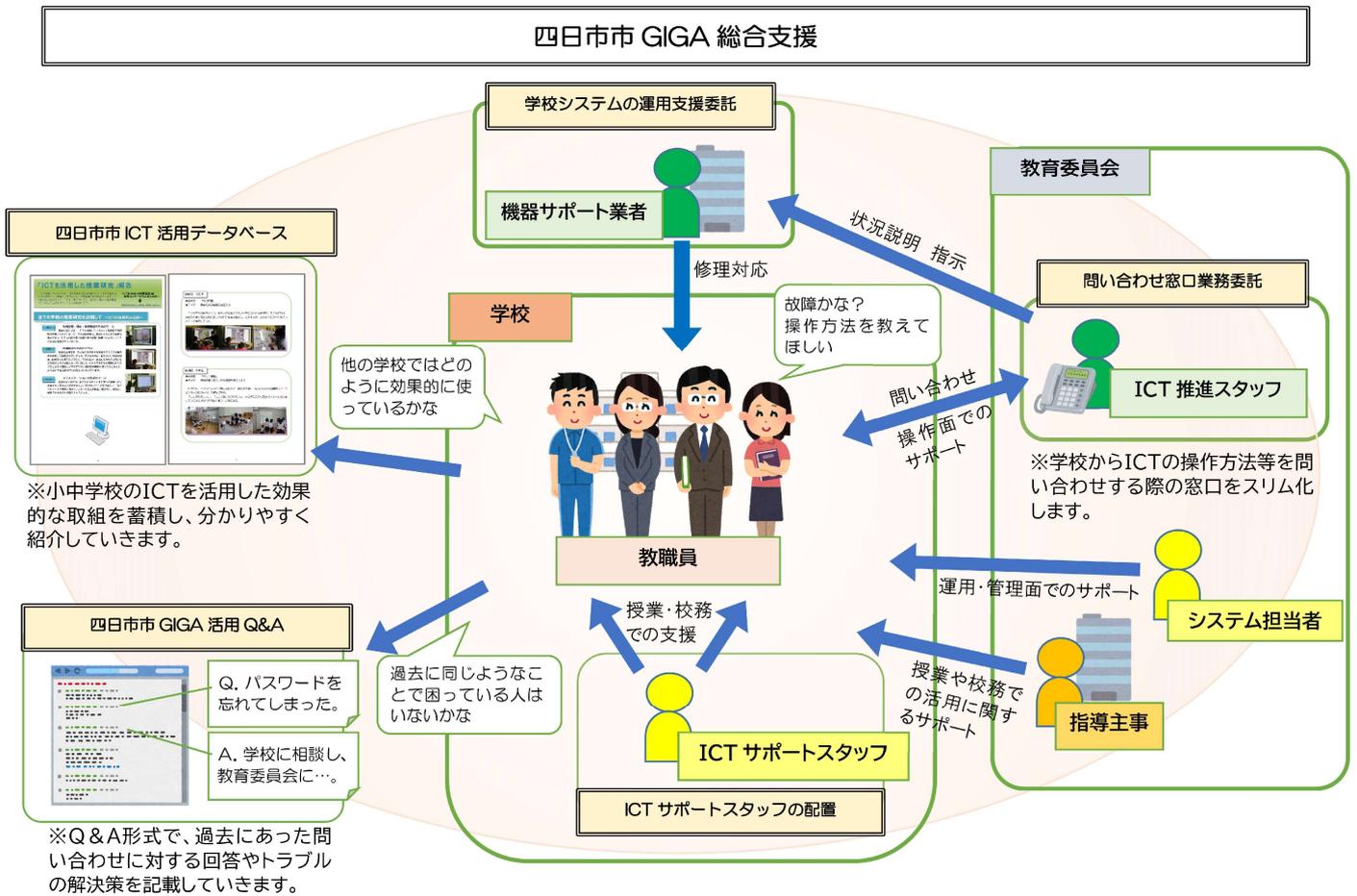
- ・ 様々な学習ツール等にシングルサインオン※が可能となる
- ・ 児童生徒等の様々なデータを共通の ID やパスワードで管理・連携することができる
- ・ 学習ツールで学んだ内容を集約・蓄積できる
- ・ 校務系データや学習系データ、行政系データなど、データ利活用に必要な様々なデータを連携し、包括的に保管・管理することができる
- ・ データへのアクセス権限の付与・制限を管理することができる
- ・ 教育委員会や学校、教職員、児童生徒、保護者がそれぞれ必要なデータをわかりやすく簡便に把握できるよう、データを分析・可視化できる

(4) 教育データ利活用の実現に向けたロードマップ



※ 「シングルサインオン」とは、1つの ID とパスワードで複数のウェブサービスを利用することができる仕組みのこと

(5) 教育データ利活用の実現に向けた学校の支援体制(四日市市 GIGA 総合支援)



教育活動DX

めざす子どもの姿(児童生徒の学び方の転換)

「ICTを効果的に活用し、自律的に学習する※姿」

デジタルのメリットを十分に理解し、使いこなすとともに、自ら問いを見出し、自分なりの方法で課題を解決し、仲間と交流しながらさらに思考を深め、新たな課題を見つけしていく姿

As is (これまでの姿)	To be (めざす姿)
<ul style="list-style-type: none">・学校の教室でしか学習することができず、時間や場所が限定されている。	<ul style="list-style-type: none">・Web 会議システムを活用したオンライン学習や、映像配信によるオンデマンド学習、クラウドを活用した協働的な学習で、時間や場所にとらわれず学習している。
<ul style="list-style-type: none">・事前に教員から与えられた教材や資料など、課題解決のための情報収集の場が限られている。	<ul style="list-style-type: none">・クラウドやインターネット等にアクセスすることで、自分が興味を持った情報や課題解決に必要な情報を収集することができ、個々に応じたスタイルで学習を進めている。
<ul style="list-style-type: none">・学校やクラスといった固定されたメンバーで学習を進めている。	<ul style="list-style-type: none">・オンラインシステムやグループウェア機能を活用することで、遠隔地においても学校間で交流することができ、多様な考えや価値観に触れ合いながら学習している。
<ul style="list-style-type: none">・児童生徒がグループ等で意見を交流し、一斉に決められたタイミングで、皆の考えをまとめている。	<ul style="list-style-type: none">・コミュニケーションツールを活用することでリアルタイムに交流することができ、他の考えを参考にして自分の考えを整理・構築したり、オンライン上で意見を共有してまとめたりして学習している。
<ul style="list-style-type: none">・ノートやワークシートで学習し、紙媒体での記録となるため資料が膨大となり、学びの振り返りがしにくい。また、学習状況の定着度合いが把握しにくく、次の学習に活かしにくい。	<ul style="list-style-type: none">・オンライン学習コンテンツを活用することで、自動採点され、即時に解答・結果が分かるとともに、蓄積された学習ログにより、苦手部分の克服や得意分野を伸ばすなど、児童生徒が最適な学習を選択している。

※「自律的に学習する」とは、学習者が自ら定める目標に向け、必要な学習内容や方向性を決定し、学習状況等を振り返りながら、評価・改善を行い、学び続けていくこと。

校務DX

めざす教職員の姿(教職員の働き方の転換)

「ICTを効率的に活用し、Well-being を高める姿」

効率的な校務 DX 化を通して、保護者・地域と連携しながら、すべての児童生徒の可能性を最大限引き出す教育を推進するとともに、心身ともに健康で、自らの人間性や創造性を高めようとする姿

As is (これまでの姿)	To be (めざす姿)
<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者・地域とのやりとりは主に電話を用いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルツールを活用した、双方向の連絡が可能になることで、保護者の満足度向上と教職員の負担軽減につなげる。
<ul style="list-style-type: none"> ・各教職員が把握している児童生徒の情報量や内容に偏りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダッシュボード機能やコミュニケーションツールを活用し、最新の情報共有と意思疎通を迅速に行うことで、学校の教職員全体で組織的対応を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルツールを利用しているが、教員からの知識伝達型の授業に偏っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルツールの活用により、児童生徒の学習状況の把握が容易になることで、自律的な学習への指導・支援の充実と授業の質的変換を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の ICT 活用スキルの差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が ICT 研修会へ参加し、学んだ内容を啓発し合うことで、日常的な業務等での活用が促進され、ICT スキルの向上に資する。
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が学校徴収金に係る業務を担っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口座振替やインターネットバンキングによる徴収のデジタル化により、徴収の手間を削減し、教職員の負担軽減につなげる。
<ul style="list-style-type: none"> ・出勤簿や休暇簿等、各種事務手続きを紙ベースで行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティを高めたクラウド活用により各種事務手続きをペーパーレス化し、提出・集計・保存を効率化することで、教職員の負担軽減につなげる。
<ul style="list-style-type: none"> ・学習と校務で異なるネットワークになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークが一元化され、クラウドを利用することで、場所を選ばない柔軟な働き方を選択することができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・テストの採点業務や文書作成等、個人的業務や校務分掌の業務に時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動採点システムや生成 AI を活用し、業務に係る時間を短縮することで効率化を図るとともに、個人の業務を組織内で共有化することで負担軽減につなげる。

事務局DX

めざす事務局員の姿(学校への支援の転換)

「ICTを効果的に活用し、適時的確に学校を支援する姿」

ICTを活用した効果的な取組の実現に向けた学校への支援体制の構築や、デジタルの活用や業務委託等を通して、学校へのサポートを迅速かつ的確に行う姿

As is (これまでの姿)	To be (めざす姿)
<ul style="list-style-type: none">・学校からの問い合わせが非常に多く、問い合わせ内容が多岐にわたっており、年間を通じて対応業務に追われている。	<ul style="list-style-type: none">・「四日市市 GIGA 総合支援」として、教職員のサポートをより迅速かつ丁寧に実施するため、包括的な学校の相談支援体制を構築する。
<ul style="list-style-type: none">・データ上の個人情報などのクラウド活用について、情報セキュリティ対策面に不安がある。	<ul style="list-style-type: none">・データ利活用について、学校や教育委員会が適切に運用できるよう、クラウド活用に対応した「四日市市学校情報セキュリティポリシー」を策定する。
<ul style="list-style-type: none">・児童生徒の学習データや生活に関する情報が、事務局内で散在しているため、早期対応につなげるための連携が必要である。	<ul style="list-style-type: none">・事務局内でクラウドシステムを活用することで、効率的な情報連携システムを構築し、学校に対しての適時・的確な支援につなげる。
<ul style="list-style-type: none">・情報の共有や報告について、メール・共有フォルダ等を活用しているが、閲覧等の場所や権限に制限があるため、不便である。	<ul style="list-style-type: none">・「ファイル共有機能」「チャット機能」「オンラインミーティング機能」等のグループウェア機能を活用し、教育委員会、学校の連携を図る。
<ul style="list-style-type: none">・搭載されているアプリや生成AIなどを校務にどのように活用できるかが分からない。また、活用時の留意点等が分からず、活用が進まない。	<ul style="list-style-type: none">・教職員の AI リテラシー向上や働き方改革に繋げるため、「四日市生成 AI 活用ガイド」を策定する。・データ利活用の方針や端末使用ルール等について、マニュアルやガイドラインを再整理する。

教育活動DX KPI 重要業績評価指標

【全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

・ICT機器の活用状況に肯定的回答した児童生徒の割合

①授業でタブレットなどの ICT 機器を、週3回以上使用した 小:58.3%(R6)→80%(R8) 中:75.9%(R6)→80%(R8)	⑤画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる 小:89.4%(R6)→90%(R8) 中:89.2%(R6)→90%(R8)
②自分のペースで理解しながら学習を進めることができる 小:84.5%(R6)→90%(R8) 中:82.6%(R6)→90%(R8)	⑥自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる 小:76.7%(R6)→90%(R8) 中:80.1%(R6)→90%(R8)
③分からないことがあった時に、すぐ調べることができる 小:91.8%(R6)→95%(R8) 中:94.9%(R6)→95%(R8)	⑦友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる 小:87.0%(R6)→90%(R8) 中:87.2%(R6)→90%(R8)
④楽しみながら学習を進めることができる 小:83.4%(R6)→90%(R8) 中:81.6%(R6)→90%(R8)	⑧友達と協力しながら学習を進めることができる 小:88.5%(R6)→90%(R8) 中:86.6%(R6)→90%(R8)

校務DX KPI 重要業績評価指標

クラウド環境を活用した校務 DX を積極的に推進している学校

・保護者へのアンケート、校内での情報や資料共有について、クラウドツールを積極的に取り入れている学校の割合 100%(R8)

教育データを利活用し、児童生徒へ適切な支援を行うことができる教職員の割合 100%(R8)

児童生徒用端末の活用に関する研修会(校内研修含む)へ参加する教職員の割合 100%(R8)

現金ではなく、口座振替、インターネットバンキング等を活用して、学校徴収金の徴収を行っている学校の割合 100%(R8)

生成 AI を校務で活用する学校の割合 100%(R8)

時間外在校等時間が年間 360 時間以下の教職員の割合 100%(R8)

※「KPI(重要業績評価指標:Key Performance Indicator)」とは、目標を達成するための取組の進捗状況を定量的に測定するための指標



四日市市の教育における DX 推進のイメージを基に、
生成 AI により作成したロゴマークです。